

## 令和4年度 第2回尾鷲市環境審議会 議事録（要旨）

日 時	2022年11月28日（月） 15:00～16:10
場 所	尾鷲市役所 2階会議室
出席者	<p>委員：高橋 正昭 氏、服部 敬 氏、佐野 茂機 氏、千種 恵美 氏、森浦 克好 氏、田中 基康 氏、小倉 章弘 氏、土井 弘人 氏、萩野 泰史 氏、中川 隆司 氏、下村 新吾 氏（出席者数12名）</p> <p>事務局：吉澤課長、中川係長、松永主査、大川主査                  (株)テクノ中部：小林副長、井上（記）</p> <p>傍聴者：なし                  記者：1名</p>
欠席者	高村 敦夫 氏、高田 秀哉 氏（2名）

● 開会：事務局による挨拶、資料確認

● 議事

(1) 第1回尾鷲市環境審議会でもいただいたご意見とその対応について

高橋委員長：資料①について質問があればお願いします。（質問なし）

(2) 第3次環境基本計画素案（案）について

高橋委員長：資料②、資料③について質問があればお願いします。

中川副委員長：素案 p. 32 について。尾鷲市域全体の温室効果ガス排出量について、2030 年度に 2013 年度比で約 49%の削減を目標としている。この数値は、2050 年に温室効果ガス排出量実質ゼロを目標とするゼロカーボンシティの理念に基づき、国の目標値である 46%を上回る数値を設定しているものと思う。排出量の現状の推移が素案 p. 9 に記載されている。国の目標値は吸収源対策を加味しているが、尾鷲市の場合はどうなのか。

事務局：（森林吸収源対策は、）別途計算したものである。

中川副委員長：そうすると、例えば 2019 年度の 145 千トン CO<sub>2</sub>というのは吸収源対策を加味した量ということか。2030 年度の数値は吸収源対策を含めたものか。

事務局：2019 年度の 145 千トンは森林吸収源対策を差し引いていない値である。

中川副委員長：2030 年度目標値は吸収源対策を考慮しているのか。

事務局：吸収源対策を考慮していない。

中川副委員長：承知した。国や県の削減目標は森林吸収源対策を含めたものである。（目標達成には）大変だとは思いますが、目標値なので厳しいのは良いことである。そうすると、製造業や自動車、業務・家庭部門の排出量削減だけで 49%の削減を目指すというイメージか。

事務局：そのとおりである。

中川副委員長：承知した。施策等を頑張ってください。尾鷲市のゼロカーボンシティ宣言は、吸収源対策を考慮して実質ゼロというように聞いている。

事務局：いただいたご意見を踏まえ、削減目標の数値について、今後改めて検討する。次回の審議会とで根拠等を示したい。

土井委員：素案 p. 24 の下から 3 項目について、外来生物だけでなく、外来植物も含めた対策とすべきではないか。また、素案 p. 33 の環境教育の項目で、おわせ SEA モデル協議会という言葉が出てくるが、後述の「おわせ SEA モデル拠点のサステイナブルセンター」とは何か。

事務局：外来生物の対策に外来植物も記載してはどうかという意見については、庁内担当部署との調整も含めて対応結果について次回審議会で報告したい。サステイナブルセンターについては、庁内資料を転記したものであり、この場で即答できないため、次回審議会で説明したい。

高橋委員長：生物には植物も含まれるので、外来生物には外来植物もすべて含まれていると考える。用語集については、網羅されていないと部分もあると感じる。もう少し説明を加えた方が良い項目もあるため、充実させてもらいたい。

事務局：次の審議会までに対応させていただく。

### (3) 今後の予定について

事務局：2022年12月下旬から2023年1月下旬にかけてパブリックコメントの募集を行い、パブリックコメントでいただいたご意見と本日の審議会でいただいたご意見への対応を行った上で、2023年2月下旬から3月中旬に第3回環境審議会を実施して、2022年度内の3月中旬に市長へ答申していただきたい。

### ● 開会

(以 上)